



Weekly Report



ロータリーは出会いのひろば

佐世保北ロータリークラブ 2011～2012年度 RI 会長 / カルヤン・パネルジー ガバナー/ 岩永信昭

会長/中島閔二 幹事/深町 等 例会場/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店8F カトレアホール (毎週月曜日)
 創立/1984. 4. 16 認証/1984. 5. 14 事務局/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店内 TEL 0956-22-7144 FAX 0956-22-1201
 E-mail office@sasebonorth.org Web http://www.sasebonorth.org

【本日】会員数45名 出席 27名 欠 席 8名 出席規定免除会員 (10) 出席 8名 ビジター 0名 出席率 79.55%
 【前々回】会員数45名 出席 23名 メークアップ 8名 出席規定免除会員 (10) 出席 8名 修正出席率 88.64%

《会員卓話》

「私と月とモーツァルト」

宮崎有恒 会員



本日の卓話「モーツァルト健康法」は、松尾プログラム委員長よりのご指名です。これも振り返ると1995年私シリーズ第一弾「私とモーツァルト」に由来するものと思います。

ちなみにその後私シリーズは、最近では「私と山」、「私と温泉」、「私とそば」があります。

音楽を聴かせると植物や野菜がよく成長する、醸造中の酒の味がまろやかに、妊娠中の胎教に良い、牛の乳の出がよくなる、こんな話は枚挙にいとまがありません。そんな音楽は大体がクラシックであり、つきつめるとモーツァルトの音楽が多いようです。

モーツァルトの音楽にはストレスの溜まった体を、リラックスさせる副交感神経を刺激してバランスを取ってくれる効果があるといわれます。

そしてその理由として

(1) 生体機能により影響を与える4000ヘルツ前後の高周波が多い。

(2) 小川のせせらぎのように自然界の音は人間にとって心地よい「ゆらぎ」がモーツァルトの音楽にもある。とこんな話をさせていただきました。

私自身考え事や 書き物するときは、かならずと言っていいほどモーツァルトの曲を聴きながらします。この原稿もそうです。

さて今回あらためてネットで検索すると出てくるわ、出てくるわ「モーツァルトを聴けば免疫力が高まる」「モーツァルトを聴けば病気になる」「アマデウスを聞いて治す耳鳴り・難聴」「アマデウスの癒しダイエット」「愛のモーツァルト療法」など、モーツァ

ルトを聴いていればもう医者はいりませんというぐらいあります。

最近では音楽を聴いて癒しやリラックスを求めるならば、モーツァルトの曲だけではなく自分にとって気持ちのいい曲もきっと効果があるのではないかと思います。

さて、以前より私がモーツァルト同様、自然界のできごとで注目していることがありますのでお話をさせていただきます。

- ・海のなかのサンゴは、初夏の満月の夜産卵する
- ・交通事故は月が半月時に、大事件は満月と新月に
- ・出産は満潮、死に際引き潮
- ・新月伐採で得られた木材は、一般的な伐採法の木材と比べ優れた特性がある。

そんな人と自然界と月の関係で、「旧暦は季節ものの商売のみちしるべ」そんな新聞記事を読んだときは、目からうろこ状態になりました。

旧暦とは、日本が明治5年に「太陽暦」を採り入れるまで、月の一年（ひと月約29日、354日）と太陽の一年（365日）の差、11日をうまく工夫して月と太陽の両方の運行を採り入れた「太陰太陽暦」です。11日の差は、3年経つと33日、丸一カ月足りなくなります。そこで少なくとも3年に一回、旧暦では一年13カ月を作ります。正確には19年に7回加える一カ月を「閏月」といいます。その「閏月」が入る場所は一定の法則がありますが、「閏月」が入ることにより、その月の季節感は長くなり、その後もずれてくると言うことです。

旧暦の一月一日は、24節気の立春の前後15日間に月が新月を迎える日を正月とします。立春は、新暦2月4日あるいは5日と決まっていますから、毎年1月20日ごろから2月20日ごろに始まります。世界の国々でも慣れ親しんでいる西暦（グレゴリオ暦）以外にその国独自の古くから使用されてきた暦があるようです。

西暦では、たんに数字が積み上がるだけです。長い間日本人が親しんでいた循環型の旧暦は、人々が自然と一体になり生活できる空間をはぐくんでいたのではないのでしょうか。今旧暦のカレンダーに寄り添って生活する

[illegible][illegible]

①4/7(土)は長崎ブリックホールにて地区大会が開催されます。車の乗り合わせをご協力よろしくお願い致します。また、昼食会出欠がまだの方は本日までにお願ひします。

クラブ会報委員会 委員長 / 蒲池芳明 委員 / 平石晃一 深堀 昌二郎 中井康晴 (記事担当者 中井康晴)